

エッセイ Essay



こころざし

災害時通訳ボランティア
バイリンガル通訳ボランティア

周 秋君

私は周 秋君です。日本では、「君」は男性の後ろにつく呼び方ですが、中国では、女性の名前にもよく付けられていたそうです。中国の歴史上の有名な人物として王紹君という女性が世の中に尊敬され、知られています。君という漢字は中国では、立派で高貴な人格を持つ人柄を指す意味です。両親が秋に生まれた私にそういう人になってほしいとの願いでこの名前を付けてくれたそうです。

日本に来る前、故郷の実家の会社に勤めました。当時は営業の仕事の傍らシステム管理もしていました。経済に関する勉強不足をしみじみ感じましたので、経済大国の日本へ留学をしようと考えました。日本に来る前は、仕事が忙しくて、日本語の勉強は殆どできませんでした。それで、日本の大学に入学する前に日本語の専門学校で勉強しました。日本語を学ぶうちに、日本文化がますます好きになっていきました。その後、日本文化の神髄をもっと知りたくて、大阪府吹田市の成蹊短期大学（当時は成蹊女子短期大学）の日本語表現文化コースに進学をしました。短大を卒業する前に結婚し、主人が日本の会社に就職しましたので、一緒に日本で家庭生活を始め、16年になります。

日本の生活ですが、留学生時代の始めの半年くらい私も他の留学生と同じように、勉強しながら、アルバイトをしていました。私の場合は両親が学費をある程度応援してくれましたので、他の人と比べるとかなり楽でしたが、それにしても、日本での生活は自分のアルバイトの稼ぎでなければなりません。慣れない環境での生活で、時間に追われた緊張の日々、十分な睡眠時間を取れなくて、限られた小遣いで以前の生活をするのはおろか、食べたいものさえ手に入れないくらいでした。もっとも困ったことは言葉の壁でした。日本語は難しく、コミュニケーションをとれず、寂しい思いをしました。同じ中国の友人達

は、生活費や学費などのため一生懸命アルバイトをしていて、集まって遊ぶことは贅沢で難しかったです。母国語を話す人は居ないですし、日本語はまだ通じなくて、とても心細く、その心理的なストレスはもっときつかったです。幸いなことに、時がたつと、環境にも少しずつ慣れ、言葉も徐々に覚えて、自分が話せることが増えてきたと同時に、日本人のお友達が増えてきました。そして、社会的な欲求も、全くない状態より“ちょっと”あるようになりました。その“ちょっと”だけの喜びが、現在わたくしがボランティア活動をしようと思えるようになったきっかけだと思います。自分の力で何かの手伝いをして、困っている人々を喜ばせることができないかと、いつも心がけています。

そこで考えたのは、まず言語の壁を越える力をつけることでした。そして、今、日本語教育に関する勉強や活動などを行っています。時には、市の教育委員会の派遣で小中学校でバイリンガル通訳ボランティアとして活動をさせていただいています。

現在、週に一、二回程度、ヒューマンアカデミー名古屋駅前校で日本語教師養成講座を受けています。いつか役に立つようになると嬉しいと思います。



講師を務めた「外国人による国際理解教育」